



救急車の寄附に対して感謝状 前田将さん感謝状贈呈式

11月9日(月)、水俣芦北広域行政事務組合消防本部から前田将さん(芦北町)に感謝状が贈られました。昨年8月に高規格救急車と高度救命用資機材の購入代金 2,800 万円を寄附し、ことし6月に納車。この高規格救急車は芦北消防署に配置し、地域住民の安全・安心のため有効に活用していきます。



↑感謝状を手にする前田さん(中央)と高規格救急車

豪雨災害 1日でも早い復興を 7月豪雨災害義援金贈呈式

11月11日(水)、7月豪雨災害で大きな被害を受けた被災地を支援しようと、県内の農業委員会組織・認定農業者協議会から義援金を手渡されました。(一社)県農業会議会長の森日出輝さんは「1日でも早く元の生活に戻れるよう復興に役立ててください」と話すと、林田副町長は「温かい気持ちの詰まった義援金をありがとうございます」とお礼を述べました。



↑この義援金は被災者のために活用させていただきます

↓賞状を手に取り、笑顔の高木さん



あったらいいなを形に 第55回県発明工夫展

11月5日(木)、植木文化センター(熊本市)で第55回県発明工夫展の表彰式が行われ、高木大幹さん(小津奈木)が県知事賞を受賞しました。制作したのは、ハンドソープの入れ物に電子オルゴールを取り付けた「楽しい正しい手洗いボトル」。ポンプを押すとハンドソープが出るのと一緒に音楽が流れ始め、鳴りやむまで楽しく十分な時間の手洗いができます。

↓赤崎地域の安全を祈る参加者



赤崎の安全を弁天島でお祈り 弁天さまのお祭り

11月11日(水)、旧赤崎小学校の近くにある島「弁天島」で、弁天さまのお祭りが行われました。アーティストの五十嵐靖晃さんによるプロジェクトの一環として、地域住民など25人が弁天島へ渡りました。弁天さまにお神酒や赤飯などを供え、管理者の松田テル子さん(日当)にならって合掌。同小敷地内のシェルターで手作りの郷土料理を食べ、今後の取り組みについて語り合いました。

善意の寄付を呼びかけ 赤い羽根共同募金街頭募金イベント

10月27日(火)、水光社津奈木店で津奈木保育園児と精神障がい者家族の会(ひまわり会)、町社会福祉協議会などが赤い羽根の街頭募金を行いました。来客者に「募金をお願いします」と呼びかけ、寄付者に赤い羽根を手渡しました。集まった募金は、豪雨災害などの被災地支援や町福祉事業の支援のために使われます。



↑募金に協力する来客者

約4か月ぶりに全線で運転再開 おれんじ鉄道運転再開

11月1日(日)、7月豪雨災害で不通が続いていた肥薩おれんじ鉄道の八代～佐敷駅間が、約4か月ぶりに運転を再開しました。再開を記念し、佐敷駅から観光列車が出発。式典で同社の出田貴康社長は「失われていた日常が一つ戻ってきた。皆さんに笑顔が戻るまで努力したい」とあいさつ。列車が警笛を鳴らして走り出すと、ホームに集まった子どもなどが手を振って見送りました。



↑出発進行の合図後、佐敷駅を出発する記念列車

↓仮設住宅で暮らす入居者にチラシを配る相談員



7月豪雨災害の被災住民を支援 地域支え合いセンター開設

10月21日(水)、7月豪雨災害被災者の生活再建を支援しようと、町社会福祉協議会に「地域支え合いセンター」を開設しました。生活支援相談員などが長期避難世帯8世帯25人が暮らす男島仮設団地を訪問。同センターには相談員が2人いて、被災者からの相談に対応したり、入居者同士の交流の手伝いなどに取り組みます。

↓水俣・芦北地域で配布を始めた「私の人生会議」ノート



自身の最期を見つめて 「私の人生会議」ノート作成

10月28日(水)、水俣市葦北郡医師会(水俣市)で「私の人生会議」ノート作成発表会が行われました。このノートは最期に備え、周囲に伝えておきたい情報を書き込むもの。担当者からは「自身に関することを整理し、終わりを考えるのに役立ててほしい」と話していました。このノートを希望する人は、町ほけん福祉課で無料でお渡ししています。